

第 3 回 館山市議会定例会会議録

(第 5 号)



1 平成元年9月29日(金曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 24名

1番 脇田 安保  
3番 田沢 勝信  
5番 岩村 勝弘  
7番 生稲 隆  
9番 山口 康雄  
11番 神田 守隆  
13番 山中金治郎  
17番 石井 謀  
19番 川名 正二  
21番 辻田 実  
23番 流山源次郎  
26番 近藤 好雄

2番 永井 龍平  
4番 庄司二三男  
6番 山崎 雅己  
8番 鈴木 勝美  
10番 鈴木 忠夫  
12番 榎本 春光  
16番 石井 昌治  
18番 日下 君敏  
20番 福原 勤  
22番 黒川 平治  
25番 渡辺 昭夫  
28番 飯田 義男

1 欠席議員 3名

14番 小宮 利夫  
27番 林 豊

15番 横溝 功

1 出席説明員

市長 半澤 良一  
収入役 渡辺 弘  
総務部長 渡辺 秀夫  
経済部長 安西 良一  
教育委員会 会長 杉村 芳枝  
選挙管理委員会 会長 加藤 利  
監査委員 鈴木 重司  
農業委員会 会長 岩城 昭

助役 小倉 澄男  
市長公室長 錦織 茂  
民生部長 小幡 清之  
水道課長 鈴木 信一  
教育委員会 会長 福原 修  
選挙管理委員会 会長 佐藤 澄雄  
監査事務局 局長 熊坂 桂一

1 出席事務局職員

事務局 長 川上 義雄

事務局 長 楠 佐 兵藤 恭一

書 記 鈴木 哲

書 記 鈴木 修一

書 記 加藤 浩一

1 議事日程（第5号）

平成元年9月29日午前10時開議

- |       |   |        |  |
|-------|---|--------|--|
| 日程第 1 | { | 議案第50号 | 千葉県市町村公平委員会共同設置規約の一部を改正する規約の制定に関する協議について     |
|       |   | 議案第51号 | 館山市の休日に関する条例の制定について                          |
|       |   | 議案第52号 | 非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について |
|       |   | 議案第53号 | 館山市減債基金条例の制定について                             |
|       |   | 議案第54号 | 館山市ふるさと創生人材育成基金条例の制定について                     |
|       |   | 議案第55号 | 館山市ふるさと創生奨学基金条例の制定について                       |
| 日程第 2 | { | 議案第58号 | 平成元年度館山市一般会計補正予算（第3号）                        |
|       |   | 議案第56号 | 館山市ふるさと創生奨学資金貸付条例の制定について                     |
|       |   | 議案第57号 | 長寿健康都市宣言について                                 |
| 日程第 3 | { | 議案第27号 | 館山市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例の制定について         |
|       |   | 議案第32号 | 館山市水道事業給水条例の一部を改正する条例の制定について                 |
|       |   | 議案第33号 | 館山市国民宿舎利用料徴収条例の一部を改正する条例の制定について              |
| 日程第 4 |   | 請願第18号 | 消費税廃止決議と公共料金の値上げ反対を求める請願書                    |

日程第 5 継続審査について

- |       |        |                            |                                    |
|-------|--------|----------------------------|------------------------------------|
| 日程第 6 | {      | 認定第 1 号                    | 昭和63年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について         |
|       |        | 認定第 2 号                    | 昭和63年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について   |
|       |        | 認定第 3 号                    | 昭和63年度館山市老人保健特別会計歳入歳出決算の認定について     |
|       |        | 認定第 4 号                    | 昭和63年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について  |
|       |        | 認定第 5 号                    | 昭和63年度館山市学童災害共済事業特別会計歳入歳出決算の認定について |
|       |        | 認定第 6 号                    | 昭和63年度館山市水道事業特別会計収支決算の認定について       |
|       |        | 認定第 7 号                    | 昭和63年度館山市国民宿舎事業特別会計収支決算の認定について     |
| 日程第 7 | 議案第59号 | 人権擁護委員候補者の推薦について           |                                    |
| 日程第 8 | 議案第60号 | 館山市監査委員の選任について             |                                    |
| 日程第 9 | 議案第61号 | 館山市教育委員会委員の任命について          |                                    |
| 日程第10 | 発議案第4号 | 館山市議会会議規則の一部を改正する規則の制定について |                                    |

開 議 午前10時21分

◎副議長（石井 謀君） 本日の出席議員数23名、これより第3回市議会定例会第5日目の会議を開きます。

議案の配付

◎副議長（石井 謀君） 議案を配付いたさせます。

議案の配付漏れありませんか。 — 配付漏れなしと認めます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

### 議案の上程

◎副議長（石井 謀君） 日程第1、議案第50号乃至議案第55号及び議案第58号の各議案を一括して議題といたします。

### 総務委員会委員長報告

◎副議長（石井 謀君） ただいま議題となりました各議案は、ともに9月19日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する総務委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長榎本春光君。御登壇願います。

（総務委員会委員長榎本春光君登壇）

◎総務委員会委員長（榎本春光君） ただいま議題となりました議案第50号乃至議案第55号及び議案第58号にかかわる総務委員会における審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る9月19日の本会議において本委員会に付託されました議案等について、21日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

以下、その質疑応答等につきまして主なる事項を申し上げます。

まず、議案第53号館山市減債基金条例の制定についてであります。今後の基金積立について説明を求めましたところ、現段階では今後の積み立ては行わないということで考えているとの説明がありました。

次に、議案第54号館山市ふるさと創生人材育成基金条例の制定についてであります。まず青少年海外派遣助成事業について、どのような方法により派遣を行うか説明を求めましたところ、財団法人世界青少年交流協会を通じて行っていくとの説明がありました。

さらに、この協会だけを通じて行うのは問題がある。ほかにも市が助成している海外派遣事業もあり、それらとの一元化も検討すべきではないかとの意見が出されましたが、初めての試みであり、当初はこの協会を通じて行い、将来適当なものがあれば取り入れていきたいとの考えが示されました。

また、特定の人ばかりでなく、市民全体のレベルアップにつながるような人づくりの施策を考えるべきではないかとの意見がありました。

次に、地域リーダー育成事業について、検討するテーマについては、1回目をトイレということで考えており、その後は自分たちでテーマを取り上げていくとの説明がありましたが、テーマはあらかじめ設定していくべきではないか、またその設定に当たっては議会など広い面からの意見を考慮すべきではないかとの指摘がなされました。

なお、これらの事業費が運用益を上回る場合には一般財源を充当、逆に運用益が事業費を上回る場合には次年度以降で調整をするが、少なくともこの基金の趣旨を踏まえて、各年度トータルで少しでも運用益を上回るような事業の計画をしていくとの説明がありました。

次に、議案第55号館山市ふるさと創生奨学基金条例の制定についてであります。現在の基金については来年の3月で統合して、4,100万円をこの基金に含めていく。基金の運用益だけではできないので、基金そのものを使っていくとの説明がありました。

次に、議案第58号平成元年度館山市一般会計補正予算（第3号）であります。歳入中、地方交付税2億4,213万円が計上されておることから、本市の基準財政需要額及び収入額について説明を求めましたところ、基準財政需要額58億5,390万円、基準財政収入額43億1,054万3,000円で、交付決定額は15億5,783万2,000円であるとの説明がありました。

次に、歳出中、環境衛生費において相浜排水路浄化施設設置工事に関する予算が計上されており、本会議においても質疑がなされておりますが、本委員会においても巴川の汚染状況、今後の対策等について詳細に質疑がなされました。なお、巴川の浄化対策として、次亜塩素酸ソーダの滅菌装置の設置を検討しているとの説明がありました。

次に、社会教育費において造形作品購入費が計上されておりますが、基金の中で処理すべきであり、厳しい財政状況の中ですぐに補正予算を組むべきものではないのではないかと指摘に対しまして、8月に基金から購入し、現在基金の保有になっている。基金の円滑な運用ということから、早い時期

に基金から買い戻すということで今回計上したものであるとの説明がありました。

採決の結果、付託を受けました議案第50号乃至議案第55号及び議案第58号については、いずれも全員一致をもちまして原案どおり可決されました。

以上、本委員会における審査の概要を御報告申し上げ、総務委員会委員長報告を終わります。

◎副議長（石井 謀君） 以上で委員長の報告を終わります。

### 質 疑 応 答

◎副議長（石井 謀君） ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

### 討 論

◎副議長（石井 謀君） これより討論を行います。

通告がありますので、発言を許します。

21番議員辻田 実君。御登壇願います。

（21番議員辻田 実君登壇）

◎21番（辻田 実君） 議案第58号平成元年度一般会計補正予算につきまして2点にわたりまして御意見を申し述べたいと思います。

まず第1には、補正予算中、相浜の排水路の浄化対策の施設工事請負費が計上されているわけでございます。この件につきましては先ほどの委員長報告にも若干触れられておりましたけれども、遊泳禁止ということで、ことしは海水浴場が開催されないという事態を招いたわけでございます。その要因は幾つかあると思いますけれども、その大きな1つに排水路から出るところの汚水によるものがあることは事実でございまして、したがってそういう意味におきましては大変な問題であるわけでございます。全国的にも海水浴場が汚染によって閉鎖されるというようなことはございませんし、NHKにおきましても日本一悪い海水浴場というような形でもって放送され、かなりの部分の人が館山の海は汚いんですねということでもって大変な汚名



を買ったわけでございまして、こういうことが来年も繰り返されるというようなことになれば大変なわけでございまして、私は特にこの相浜におきまして、ところの排水路の浄化対策には一層力を入れ、そして海水浴等の絡みもあるわけでございますから、万全を期してこの予算の執行がなされますことを要望いたす次第でございます。

2番目には、南部地域広域水道でございます。この実現ということは、南房総全体が水不足に悩んでおり、さらにはリゾート開発という課題を抱えている中でもって、本当にのどから手が出るほど欲しいものでございます。しかしながら、この南部地域の広域水道の水源の問題につきましてはいろいろな困難と障害があるやに聞いております。しかしながら、そうした問題については粘り強く積極的に解消いたしまして、この地域に水道が引けるようにしなけりゃならないというふうに思います。

その際に一番問題になるのは、引くことによって市民に必要以上の負担、過重が加えられないようにしてもらいたいということを私は申し述べたいわけでございます。今でも県営水道は市町村のそれぞれの水道料金等と比べるとかなり高い水準にあるということが言われております。今回のこの水源を利用して館山まで持ってくるということになりますと、千葉県一高い水道料金になるんじゃないかということもささやかれております。工事費の関係、その他の関係でどうなるかわかりませんが、今の館山の水道料金よりはるかに高くなるということがありまして、それが果たして市民の許容できる範囲になるかどうかということについてはかなり問題もあろうかと思えます。そういう点については十分配慮しながら、この南部地域の水道の布設の実現にひとつ努めていただきたいという要望意見を出しておきたいと思えます。

次に、2点につきましては私は本来反対の立場でございます。しかしながら、予算という性質上、また1つの政策、施策に対しましてはそれぞれの人の見解の相違というものがございますので、したがって私はその面におきましては提案されました執行部とかなりの見解の相違を来しております。したがって、私は採決に当たりましてそうしたところの見解の相違があ

るという意見を陳述いたしまして、そういうものを十分考慮して予算の執行に当たっていただきたいというふうに思うわけでございまして、そういう観点から2点について申し上げます。

まず第1点は、補正予算中、城山公園に茶室の建設をするわけでございます。茶室そのものは日本の伝統文化として日本人の精神と心を支えるすばらしいものであるわけでございます。そういった観点から、当初予算には相当額の予算が計上されまして、現在城山の上に建設されておるということでございます。このこと自体については私は問題はないし、また私もお茶というものについては30年来いろいろなかわりを持っておりまして、関心があるわけでございまして、そのこと自体は私は歓迎いたします。

しかしながら、当初予算が通った以降いろいろと市民の間からの意見も出されております。それらを総合すると、お茶室そのものは問題ないけれども、現在の館山の予算の財政状況からいってあのように多額な予算を支出することが果たして適切であるかどうか、議会においては考えてもらったのかという痛烈な意見があるわけでございます。

私はこれらの点についていろいろと検討しましたところ、茶室はいいけれども、しかし数千万円の金を使って今館山市がつくることが果たして館山市の分相応な状態なのか、そしてそのことが直接館山市民の文化的な向上につながっていくのかどうかというところになりますと、もう少し慎重を期してもよかったんじゃないかというふうに考えられるわけでございます。

その具体的な理由は幾つかあります。1つは場所の問題でございます。城山のとっぺんに茶室をつくるということにつきましては、地理的にかなり困難があらうと思います。茶道具等の搬入、そういう面におきまして非常に困難を来します。そのことが第1点。

そして、茶室というものはあいう山のとっぺんとか城閣の中の表玄関というんじゃなくて、どちらかというと非常に裏方の方、隅の方にあって、そしてその中において異常な光を発するというのが茶室の本来だというふうに思っているわけでございます。

私は一昨年京都の山崎を訪問いたしました。それは千利休が最期を送った

妙喜庵というのがございまして、その中にありますところの待庵というのは国宝であるということでありまして、それが公開されましたものですから、長年の懸案であった夢を果たしたわけでございますけど、わずか2畳の間でございまして。太閤秀吉が金の茶室をつくって権勢を振るったわけでございますけど、それに対しまして千利休はあの山里離れた簡素の中に2畳のわらぶき屋根ですか、の小さなものをつくって、その中に究極の目的をつくったと、これは茶の心の真髓だということでもって、今日の千利休の茶の精神というのはあの待庵から始まっておるということが待庵の案内者の説明であって、ああみすばらしい建物だと、こんなものはちょっとうちの庭の隅ぐらいでもできるかなというような感じでございましたけれども、しかしながら中に入ると私1時間余見ておりましたら、やっぱりさすがにというものが何か私なりに感じられたわけでございます。そのことは、お茶の心というのは非常に静かな、そして余り表に立たない、しかし非常に深いもの、わびの精神というものはそういうところにあるという形の中からいって、ああいう派手なところにはぱんとうることが果たして茶の心からいっていいかどうかということについては、かなり問題があるやに思われます。

それから、お茶を今館山でもって利用している人、さらには全国的にお茶の愛好者というのは非常に限られた特定の人であるということ。館山におきますところの人口も決して多いわけではございません。私もかなり知っておりますけれども、非常に限られております。現実的にお茶の利用といっても限られた人しか使わないということの中でもって、今館山においてそうした層からいって莫大な予算組むにはちょっと無理があるんじゃないかと、もう少し茶室というああいう象徴的なつくる前にすそ野の広い形があるんじゃないかと。具体的には、コミュニティセンターの中におきますところの茶室の利用についても、私は十分とは言い切れない面があると思います。あの茶室をつくりまして、いろんな書家の人だとか画家の人が立派なところの作品を提供しましたけども、あれらの展示その他につきましては余り活発に行われていないという状況もあるわけございまして、そういう点から見ると一挙にそういうものを飛び越えてこういうものをつくるということが果たして

利用度、そういった面から適切かどうかという、必ずしもそうではないと、このように思われるわけでございまして、そういう面からまいりますと、今あそこにつくったということはかなり強引さがあるんじゃないかと、私はそういう面におきまして適切じゃなかった。

しかしながら、それは私はそういう面でもって適切じゃないという意見を持っておるわけでございますが、それは議会の中で明らかにしておく。しかしながら、これを必要とする、また欲しいと願望する市民の何人かいるわけでございますから、それらの意見というものを選択したということであろうと思いますので、したがって私は全くこの建設については全面的に賛成したというわけではございませんで、そういう意見の中でもって、しかし見解の相違を持ちながら消極的な賛成をしていくという形になったということ、ここでもって意見として明らかにしておきたいと思います。

今後こうした問題についてはもう少し論議を深め、議員間との間、正式の議場の中でもって議案として提案して、どうかこうかという以前の話合いというものをもっと深めていただくことが肝要かというふうに思うわけでございます。ただ単にこの茶室だけの問題じゃなくて、奨学資金にしてもいろんな問題が、そういう点があるやに思われるので、その点については私は要望意見としてつけ加えておきたいというふうに思います。

もう一点は、委員長の方からかなり詳しく報告がありましたけども、造形作品の購入費の 927万円でございます。現在購入基金というのが 3,000万円あるわけでございますから、その 3,000万円の運用の趣旨からいって、920万円の作品を購入したからといってすぐそれを補てんしていくということは資金運用の面からいって妥当ではないんじゃないかと、これはもう委員長が言ったとおりであるわけでございます。しかしながら、私はこの作品の購入、また作品の運用については、やはり先ほど申した茶室と同様に、もう少し市民の感情、そして市の予算状況、こういうものと十分かみ合わせながら適切な執行を図っていただきたいと。いい作品、いい芸術品は欲しいことは欲しい、欲しいからといってそれを買うというわけにはいきません。それは子供の考えでございまして、大人ならば欲しいものを買わずにもっと

ほかのものに金を充てるという必要があると、具体的には経済政策、商業政策の振興、リゾートの振興、こういう面にもうちょっと予算の執行が重点的にやられて、その犠牲が多少芸術品を購入する面においてしわ寄せがあっても仕方がないんじゃないかという状況もある、私はそういう考えでございます。

しかしながら、私の考えであって、市長の考えとはかなり違うようでございますけれど、これは見解の相違としてやむを得ないわけでございますけれども、私はそういう見解を持っており、そういう面でもってこの今一連の文化作品、彫刻作品を購入という面については必ずしも全面的に手を上げて賛成という立場でないということを明らかにしておきたい。しかしながら、内容が内容だけに私はこの問題については反対という表明はいたしませんけれども、内容的にそういう意見を持っているということを十分考慮していただきたいと、このことを申し伝えまして、歳入歳出8億 970万 4,000円の追加補正につきましては市政の運行、意見の相違もありながらも、そうした小異を捨てて、私は予算という性質柄執行に粗相のないようにしなきゃならないというふうに考えますので、この補正予算については賛成をし、適切な、有効な執行を図っていただきたい。

蛇足を申し上げて申しわけありませんけれども、御意見にかえさせていただきます。次第でございます。

◎副議長（石井 謀君） 以上で辻田 実君の討論を終わります。

以上で通告者による討論を終わりますが、通告をしない議員で討論はありませんか。――討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

## 採 決

◎副議長（石井 謀君） これより採決いたします。

採決は一括して行います。

議案第50号乃至議案第55号及び議案第58号についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎副議長(石井 謀君) 御異議なしと認めます。よって、議案第50号乃至議案第55号及び議案第58号の各議案はいずれも原案どおり可決されました。

#### 議案の上程

◎副議長(石井 謀君) 日程第2、議案第56号、議案第57号及び議案第27号の各議案を一括して議題といたします。

#### 文教民生委員会委員長報告

◎副議長(石井 謀君) ただいま議題となりました議案第56号及び議案第57号は9月19日の本会議において、議案第27号は3月13日の本会議においてともに文教民生委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する文教民生委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

文教民生委員会委員長鈴木勝美君。御登壇願います。

(文教民生委員会委員長鈴木勝美君登壇)

◎文教民生委員会委員長(鈴木勝美君) ただいま議題となりました議案第56号、議案第57号及び議案第27号にかかわる文教民生委員会における審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

議案第56号及び議案第57号については9月19日、議案第27号については3月13日の本会議において本委員会に付託されたものでありまして、21日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

以下、その質疑応答等につきまして主たる事項を申し上げます。

まず、議案第56号館山市ふるさと創生奨学資金貸付条例の制定についてありますが、ふるさと創生事業については市民からのアンケート調査を行って人材育成と決定したとのことでありますが、件数が少なく、果たして市民の声を正しく反映しているかどうか、また全市的なものであったと言えるかどうか論議がなされました。なお、ふるさと創生事業として人材育成を取り上げたことについては、ふるさと創生というのはまちづくりと考え、まちづ

くりは即人づくりであるという考えから決定したものであるとの説明がありました。

次に、本会議の質疑において大学院生が対象となるためには条例改正が必要であるとの答弁があったが、大学の課程として大学院があるわけで、対象とするために条例の改正は必要ないのではないかと指摘に対しまして、条例の改正を必要とした本会議の答弁は訂正したいとの答弁がありました。

本案につきましては、1名の委員から修正案が提出されました。修正案の内容について申し上げます。修正は、第10条第2項中の「3分の1」を削り、「本市に住所を有する間毎月返還する額を全額免除」としようとするものがあります。修正案の提案理由として、3分の1の免除という考え方には財政上の理由ということ以外に説明が得られない。条例の規定であって、弾力的運用というわけにはいかない。全額を免除するとして地域の振興を図るべきであるとの説明がありました。

さらに質疑を行い、奨学生であった者がどの程度本市に住所を有しているか説明を求めましたところ、特に調査は行っていないが、61年度から63年度までの大学卒業者計6人のうち市内に在住しているのは1人であるとの説明がありました。

また、全額免除しても十分基金を運用していけるのではないかと質問に対しまして、大学生10人、高校生7人程度は貸し付けたいということから、逆算して基金の額を計算した。なるべく多くの人に利用してもらいたいということが基本的にあり、返さないことによって1人でも利用者が少なくなるということは困るということで、3分の1の免除としたとの説明がありました。

採決の結果、修正案は賛成少数により否決、原案は賛成多数をもって可決されました。

次に、議案第57号長寿健康都市宣言についてであります。まず本市における健康保健事業、福祉施策の現況について詳細に質疑がなされました。

さらに、都市宣言をするに当たって施策目標を示すべきではないかと指摘に対しまして、宣言の目的に合う諸施策を今後充実していく旨の考えが示

されました。

本議案について、全員一致をもって原案どおり可決されました。

次に、議案第27号館山市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例の制定についてであります。まず県下各市の消費税転嫁の状況、収集コストの内容等について当局から詳細に説明を求めました。

本議案については、5名の委員より修正案が提出されました。修正案の内容について申し上げます。修正は附則の修正でありまして、原案の附則の施行期日平成元年4月1日を平成元年10月1日に改めるものであります。修正案の提案理由として、消費税の導入に伴う使用料、手数料の見直しについては、県を初め県内の各市町村の中でも相当数見送りあるいは検討中のところもあったことから、本市議会でも3月、6月定例会において継続審査とし、慎重に審議を重ねてきたが、既に本年4月1日から消費税法が施行され、地方公共団体が行う財貨、サービスの提供等についても原則として課税対象となっていること、県においても10月1日から転嫁が決定していることなどを考慮し、本条例を10月1日から施行することが適当であるとの説明がありました。

次に、修正案に対する質疑が行われ、まず10月1日から施行するとしたことについての質疑があり、既に4月から法律が施行されており、県が10月からの転嫁を決定したことに伴ってのものであるとの説明がありました。

次に、周知期間が全くないとの指摘に対しまして、3月に提案されて継続審査になっており、その間市の置かれている状況について広報等で市民に知らせてきた。決定した時点で当局にきめ細かい周知をするよう要望するとの説明があり、さらに当局から、議決後直ちに各戸向け回覧、チラシの配布を検討する。なお、収集手数料については2カ月単位で徴収しており、10月、11月分は12月徴収となるとの説明がありました。

次に、3月議会で消費税4月実施延期を求める意見書を議決したが、その中にこのままでは市民の理解が得られないとあるが、現在でも状況の変化はないと思うがどうかとの指摘に対しまして、世論調査の結果を見ても状況は変化しているとの説明がありました。



次に、討論を行いました。住民に負担させる法的な義務、責任はなく、財政負担の問題だけである。現実には3%の700万円が簡易課税制度のもとで200万円足らずとなり、財政的負担もそう大きいものではない。処理コストが低くなっている中で、財源は見込めるわけで、転嫁の必要はない。また、修正案について、全く周知期間がない。実施について市民からの批判は免れない。また、両案とも正しく民意が反映されているとは考えられない。見直しをすれば消費税を存続させていいという根拠は非常にあいまいである。現状で実施するのは見直しを期待している人の率直な気持ちを踏みにじるものである。消費税の拙速を繰り返すべきではないとして、修正案、原案に反対する意見がありました。

さらに、諸外国の情勢等を見ても、また我が国の将来を考えたとき、消費税の導入はやむを得ないものであるとの賛成意見がありました。

採決の結果、修正案及び修正部分を除く原案についていずれも賛成多数をもって可決されました。

以上、審査の概要を申し上げまして、文教民生委員会委員長報告を終わります。

◎副議長（石井 謀君） 以上で委員長の報告を終わります。

#### 質 疑 応 答

◎副議長（石井 謀君） ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

#### 討 論

◎副議長（石井 謀君） これより討論を行います。

通告がありますので、発言を許します。

21番議員辻田 実君。御登壇願います。

（21番議員辻田 実君登壇）

◎21番（辻田 実君） ただいまの委員長報告中、議案第56号並びに議案第27号について私は反対討論をいたしたいと思いますので、よろしく願い

をいたします。

まず第1は、議案第56号館山市ふるさと創生奨学資金貸付条例の制定について私は反対の討論を申し上げます。

現在の国民生活の状況から見まして、中産化が多く進んでおります。そうした意味におきまして、奨学制度そのものは非常に20年前とは変わってきているという現実を直視しなければならないと思います。そして、この奨学制度というものは現在篤志家の人たち、さらには企業の利益の中から社会奉仕、社会事業に対する貢献というものでもって相当部分が維持され、運用されているのが現況でございます。これは社会の美德として私は非常にいいことだというふうに思います。そういう中におきまして、市の予算を投入して奨学制度を持つということは余りその効果が上がらないんじゃないかと、篤志家や企業の人たちがその利益の中から奨学金に回すということでもっている制度に太刀打ちするには余りにもまたその内容的にも貧弱過ぎるという面が出てくる、そういう面では私は今日の地方財政の苦しい中から予算を捻出して奨学制度を行うということは必ずしも適切じゃないと、この観点に立って私は御意見を申し上げる次第でございます。

まず第1点は、福祉事務所からその所管が教育委員会へと移行されるということについては、私は奨学金の制度そのものからいって好ましくない、多くの市町村では教育委員会でもって扱っているところが多いようでございます。けれども、しかしながら本来の趣旨からいって私はこういうことを今やる必要はないんじゃないかと、これが第1点。

第2番目には、先ほども委員長報告にございましたけれども、昭和61年から63年の3年間にわたりまして大学を卒業した人が6人だそうでございます。そのうち館山へ帰ってきたのは1人ということでございます。私はこの数字を聞いて唖然としたわけでございます。もっともこの活用が多く、運用がし切れないということならいざ知らず、非常に数が少ない。数が少ないということはどこにあるかというと、先ほど申した時代の今の流れ、今日の経済成長の中でもって中産階級の非常に充実という中においてある。また、今働こうと思えばどこでも働いて割合に安易に就学ができるという状況にあり

ます。東南アジア、フィリピン、そして中国あたりからどんどん、どんどん密入国しても日本へ来ればえらい生活が送れるということでもって、働き場はもういっぱいあるわけでございます。そういう中でもって、学生が昔と違って働き、学ぶということはそう困難でない状況の中で、あえて奨学金に頼ろうという学生は今日非常に少ないという現実を私たちは見なきゃならない。

私はたまたま子供が2人、昨年1人は、2番目は大学卒業しましたものですから、そういうことでもって大学生とはここ七、八年間非常に身近に接しておったわけでございまして、わかるわけでございますから、今の学生はそういった苦しいから親に頼ろうとか、苦しいから奨学金に頼ろうというのはほとんどおりません。私も十分生活費を送れなかったものですから、結構おやじの給料ぐらいのものはアルバイトで稼いじゃって、30万ぐらい稼いだなんていって得意になっているときがありまして、私の手取りが純益でもって30万というとなかなか少ないわけでございまするけど、もっと稼ぐのがあるなんていうようなことをよく聞いていまして、その内容はどんなことかという、さほど就学に障害を与えるような形でなくて得ているという状況があるわけでございまして、そういう中でもって少ない市の予算を投入することは問題がある。

特に、今回はふるさと創生というあれだけ大騒ぎをして鳴り物入りでなった1億円の金の支出でございまして、もっと使い道は私はあると思います。その中から今回は4,050万円をその基金に割り当てようといひますから、私は悪く言えば死に金になってしまうと、必ずしもその所期の目的どおりに生きないということであって、やはりふるさと創生資金を使うにはもうちょっと違う面に使うのが至当であろうというふうに思うわけでございまして、これはもう完全にその資金の制度、運用からいっても私は適切じゃないというふうに思うわけでございまして、反対するわけでございます。

それから3番目には、この10条2項については修正案が出たようでございます。3分の1の免除を帰省者にやるということでございますけれども、6人の卒業生のうちの1人——私は今優秀な学生が大学を卒業して館山に帰ってくるということは非常に困難であろうというふうに思っています。これを

果たすということはもう並み大抵のことではないというふうに思います。

自分の子供も2人とも館山へ帰ってきません。お父さん、館山へ帰ってこいというけども、帰ったらどこへ就職するんだと、市役所ぐらいしかないじゃないかと、こういうわけなんです。市役所だって狭き門でございます。じゃあ奨学金もらった人は市役所へ無条件で入れるかといえば、そうはまいらない実態であるわけでございます。

考えてみると、今の館山の経済状況、いろんな中からいって、大学を卒業して就職して、普通の給料をもらって普通の生活するようなところがどのぐらいあるかといったら、本当に私も探してみただけでもなかなかないと、子供にここ行けよということは言い切れない。

したがって、東京の金融機関とまた情報産業の機関に方に就職しまして、割合にいい月給を、こんなに今の大学卒でも金はくれるのかというところへ勤めていますから、これじゃ館山へ連れてくるの無理だなというふうに思っているわけでございしますけれども、そういう状況の中でもって、しかしながら館山へ帰ってきてやるという人がいるものについては、3分の1だなんていうけちなことを申し上げないで、さっきも日下議員が言っておりましたけど、これは全面免除し、さらにはまた帰ってきたら報奨金つけたぐらいでも私は人材を館山に呼ぶということでやってもいいと思っているぐらいでございます。

それほど優秀な人間が館山へ帰ってこないという状況の中で、3分の1なんていうのはむしろそういう帰省を、館山へ帰ってこようという人の気持ちをむしろ私は妨害するようなものになってしまうんじゃないかと。これはやはり百歩譲っても、奨学金そのものを百歩譲っても、この条項については私はせめて多くの議員が意見として出ていたように全廃にして、帰ってきた人にありがとうございますというものを市議会挙げてやはりやるべきじゃないかと。市民挙げて歓迎して、そういう人に館山でもって安い月給、厳しい就業状況の中でもって頑張ってもらおうと、ありがとうございますということで励まして、将来の館山を立ててもらおうということを私はするためにも、この条例の3分の1というのはブレーキになるというふうに私は判断するわけでございし

て、そういう面については私はこの条例については廃止していただきたい。

20年前に奨学資金について奨学資金制度は反対だなんて言いましたら、本当にもう袋だたきになりまして大変なことであったと思いますけど、私はいろんな人に聞きまして、運動会も2カ所ほど出まして、校長先生にもいろいろ聞きまして、表向きは言えないけど、辻田さん言うように今奨学金といっても余り魅力がなくなりましたねと、ないよりあった方がいいんでしょうけれども、そこら辺は議員さんも大変ですねというふうな歯切れの悪いことを言っておりましたし、またそういう教育者でない人は、今さら奨学資金そんな4,000万も5,000万も使って市の予算出すことはないよと、何やってんだかと、そのぐらゐの金あればこっちへ回してもらいたいというのが非常に多くて、どうもこれはありがたい、これはいいなという人は私の耳には――私はちょっと変人かもわかりませんが、ほとんどなかったということでございまして、そういう民意の反映という面からいってももうこの奨学資金制度は時代おくれ、そしてこういう膨大な金を自治体の費用を使って今地方財政の苦しい中でやるべきじゃない、これにかわるものはボランティアによって十分維持されているという現実を直視するならば、私はこの基金というものは、ふるさと創生の本旨に戻って執行すべきが建前であって、この条例についてはそういう観点から反対するものでございます。そういう面も十分考慮に入れましてこの議案については扱っていただきたい。

議案第27号館山市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例の制定についてでございます。この議案はもう大変な問題になっております消費税関連の議案でございます。議案第32号、水道料金、議案第33号の国民宿舎の利用料金も同一のものでございますので、それらと関連いたしまして私は意見を述べたい。

もう何回も繰り返されてきて、平行論でございますけれども、消費税は公約違反のものであったことはもうだれでも承知しているわけでございます。公約違反ということは民主政治の根幹の問題でございます。

2番目には、したがってこの根幹の問題を踏みにじったから自由民主党はさきの参議院選挙でもってもう予想以上の思わぬ大敗を喫したわけでござい

ます。私は自民党が悪いとは思っていません。自民党の幹部も、消費税が悪かったのが自民党負けちゃってえらい目食ったということでございます。東京都の都議会議員は、消費税を通した自民党にはいらないと、おれは無所属になるといって、多くの自民党の人が、地方議員の人は自民党を離れている人もおるといぐらい、消費税が本当に全く政治家、また国民を困らせていることは事実でございまして、そのことが明らかになっている中でもって館山市も慎重を期さなきゃならない。

3番目には、昨日から第116臨時国会が召集されました。政府の税調におきましても、自由民主党におきましても、野党はもちろん全部が見直し法案を出すということでもって、政府の税調においても見直しを検討しているわけでございます。今国会には提出すると言っています。自由民主党もさきに自由民主党が提案を消費税しておりながら、見直しを今国会中にやるということでもって大変な騒ぎやられていることは連日テレビに放送されてます。一昨日のテレビ、日曜の討論会におきましてもその問題が出されておりました。私も聞いておりました。どう見てもこの臨時国会の中でもって見直しされるということは私は明らかなだと思えます。見直しをしないという政党は一つもないんですから、自由民主党初め政府に至るまで。そのことがこのすぐ先に行われるというのがわかっていながら、今あえてここでもってその悪い法律を通さなきゃいけないということは、私はこれはうなずけない、どういふことなのかと思うわけでございます。私は東京都の知事だとかほかの市町村においては、これらのものは市長自身がそういう情勢を加味して撤回しているところもあるわけでございますから、私はそれをやってもらいたかった。

市長はこの件につきましては、できのよくない法律であっても法律は法律、法律に従わなきゃならないという論議で尽くされております。しかしながら――それは私はそういうこともあるかもわかりません。しかし、私は戦後の大学でもって法律を勉強しました。その中においては、地方政治というのは中央集権に対して中央の政策、法律に対してそぐわないものについてはチェックし、地方自治本来の住民のための生活を守るチェック機関として地方自

治体というのは存在するということを教わってまいりました。私はそういう信念であります。したがって、戦前の法律のように中央が決めれば地方は全部従わなきゃならない、徴兵制度によって赤紙1枚でもって戦争に行かなきゃならないと、こういう時代はなくなって、今は中央が決定しても地方は地方としての自治権というのが地方自治法によって定められ、それによって地方自治体は運営され、地方議会は運営されているわけでございます。そこら辺は見解の相違であることは明らかでございますけれども、私は地方自治権、このことを――市長との間にはかなり食い違いあるようでございます、市長は地方自治権を認めておられるけれども、しかしながら中央の法律につきましては尊重しなきゃならないと、そこら辺のかみ合いは、私の方がずっと自治権の方にウエートがあるから言うのかわかりませんが、したがって私はそういう面でもって、条例の施行運用については、今回の場合には国民の世論でございますから、市民の世論でございますから、この条例についてはやはり執行についてはずっと猶予していったって諸情勢を眺めるのが妥当であったというふうに思うわけでございます。

法律が生きているから予算の執行は云々ということでございますけど、水道にしても、ことに限っては水道の経営というのはいいわけでございます。したがって、これらの問題が課税として市民の負担となるといっても、しかしながら企業会計の中においてことはおさまられないという状況じゃございません。百歩譲ってそういう状態になっても、やはり今民意を中心としてこの消費税を抑えるということが私は大事であろうというふうに思うわけでございまして、そういう観点におきましてやはり他の市町村も他の都道府県においてもそういう状況にあるわけでございますから、私はそういう意味におきまして今回はこの条例は見送っていただきたいというふうに思うわけでございます。願わくば私の意見としては撤廃をして、そして中央でもって見直しが行われた後において新たにやっぱし提案してやるべきが筋だと思いますけれども、百歩譲っても私は継続審議に持っていったって、やはり中央の情勢、諸情勢を見て対応すべきだというふう思います。

委員長報告にもございましたけれども、修正案の中におきまして4月1日

の修正というものは出されたようでございます。私はこれ妥当だと思います。今見直し案を国会で論議されていますから、それが4月1日に終わるわけでございますから、それを見てやれば私は非常に妥当だと思います。そのときの結果には、間には総選挙もあろうと思いますし、その民意そのものに従うべきだろうと思いますので、これは適切であると思いますけど、委員会の中ではこれは否決されたということでございます。

それで、委員長報告にもありましたように、10月1日の施行はかなり無理があります。県は10月1日だということは理由だと思います。しかしながら、県はあの条例を決めたのは6月議会で決めて、その3カ月間猶予をもって10月1日です。きょうこれが成立しますと、あしたあさってから施行されるわけでございます。かなり無理があります。そんなことをやっぱりやるべきじゃないと、少なくともこれは1月実施なり2カ月先にやらなければ——市民をばかにしていますよ。それは今まで提案してありますから、すぐいつでもこれはもう改正はできますよということを言っておっても、しかしながら議会があり、法律は制定されてからそれからやはり取り組むべきだ。

委員長の報告の中には、そうした面についてはいろいろと広報活動して、PRして粗相のないようにということでございますが、これはやはり泥棒入ってから縄をなうようなものでございまして、事前にPRをしておいて、PRが行き届いた後からやはり法律は施行していくという形をとるのが親切であり、それが適切であろうと、そのことを間違ったから今消費税でもって日本じゅうごった返しているわけございまして、そういう面を考えるならば、10月1日の施行というのは百歩譲っても非常に問題があるというふうに思ひまして、これはもう市民からの——委員長もそしりは免れないけれども、何とかPRによって理解を招いていきたいということ、そんなものでは済む問題じゃないと思う。金が絡んでいるわけでございますし、政治の本質に絡んでいる問題でございますから、私はこの10月1日というものについては非常に不適切であるというふうに思うわけございまして、そういう意味におきましてはこの廃棄物の処理の問題、消費税の問題については継続審議をして慎重を期してもらいますことを議員の皆様にも同調していただく、頭を下



げてお願い申し上げる次第でございますので、よろしくお願いいたします。

◎副議長（石井 謀君） 以上で辻田 実君の討論を終わります。

次、12番議員榎本春光君。御登壇願います。

（12番議員榎本春光君登壇）

◎12番（榎本春光君） 私は、消費税転嫁について10月1日から施行しようとする委員会の決議に賛成の意見を述べさせていただきます。

国では、野党が消費税代替財源案で合意しました。しかし、盛られた内容が自然増収や物品税の復活、有価証券譲渡益の課税強化など帳じり合わせにすぎないものと思われます。物品税が復活されれば物価高騰を招くおそれがあり、経済のソフト化、サービス化の流れに逆行するものであります。旧物品税はコーヒーが課税で紅茶が非課税、ゴルフ用品が課税でテニス用品が非課税など多くの矛盾を抱えております。こうした矛盾を解消するため、また直間比率の整合性を考え広く薄く課税する消費税を導入したのに、2年間の暫定措置とはいえ物品税を復活するのは時代錯誤であると思います。また、キャピタルゲインの課税強化は数字合わせにすぎない感があり、金融の空洞化が懸念されるのであります。

代替財源案の中で物価への影響はどうでありましょうか。消費税が廃止されればあらゆる価額が完全に3%引き下げられ、導入前の水準に戻るかどうか甚だ疑問であります。外税の場合は税金を転嫁しなければ済みますが、内税の場合果たして値下げに応じるかどうかわかりません。その上、物品税が復活して3段階の税率が上乘せされれば、物価高騰の引き金になることは明らかであります。

政府は消費税の見直しをしております。欧米各国はすべて消費税が転嫁されております。税の基本理念である広く薄くは必要欠くべからざるものであります。ある人にとっての理想は他の人にとっては不満な状態であります。すべての人が理想を言い張っていたのでは改革は永久にできないと思うのであります。十分でなくとも必要な改革はすべきであります。

今回の条例改正案につきましては、既に消費税法が4月1日から施行され、各経費に消費税が課税されていること、現実には納税義務が生じていることな

どから、委員会の修正案は妥当なものであると考え、賛成いたします。

◎副議長（石井 謀君） 以上で榎本春光君の討論を終わります。

以上で通告者による討論を終わりますが、通告をしない議員で討論はありませんか。— 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

### 採 決

◎副議長（石井 謀君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、議案第56号館山市ふるさと創生奨学資金貸付条例の制定について起立により採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

◎副議長（石井 謀君） 起立多数であります。よって、本案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第57号長寿健康都市宣言について採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎副議長（石井 謀君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第27号 館山市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例の制定について採決いたします。

本案についての委員長の報告は修正であります。

本案を委員長の報告どおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（「21番、採決についての動議」と呼ぶ者あり）

◎副議長（石井 謀君） 21番にお伺いしますが、採決の方法についてですか。

◎21番（辻田 実君） はい。

◎副議長（石井 謀君） 21番辻田 実君。

◎21番（辻田 実君） この問題は非常に大変な問題でございます。簡易採決ということにつきましては私は適切じゃないと思います。したがって、議事規則に基づきまして本採決をしていただきたいと、よって私は記名投票をもって賛否を問うことが適切であるというふうに思いますので、したがって記名投票で採決を行うことを動議として提案いたしますので、よろしく願い申し上げます。

◎副議長（石井 謀君） 暫時休憩いたします。

午前11時23分 休憩

午後 零時22分 再開

◎副議長（石井 謀君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

21番辻田 実君。

◎21番（辻田 実君） 先ほど動議として投票方法についていたしましたけれども、動議を撤回いたしまして要求に切りかえますので、よろしくお願いいたします。

◎副議長（石井 謀君） この採決について、辻田 実君外3人から記名投票によられたいの要求と、山中金治郎君外5人から無記名投票によられたいの要求が同時にあります。いずれかの方法によるかは、会議規則第71条第2項の規定により、無記名投票をもって採決することになっております。

まず、無記名投票によられたいの要求について採決いたします。

議場の閉鎖を命じます。

（議場閉鎖）

◎副議長（石井 謀君） ただいまの出席議員数は23人であります。

投票用紙を配付いたさせます。

（投票用紙配付）

◎副議長（石井 謀君） 投票用紙の配付漏れはありませんか。 — 配付漏れなしと認めます。

投票箱を改めさせます。

（投票箱点検）

◎副議長（石井 謀君） 異状なしと認めます。

念のため申し上げます。無記名投票によることを賛成とする諸君は賛成と、反対とする諸君は反対と記載の上、点呼に応じて順次投票願います。

なお、重ねて申し上げます。投票中、賛否を表明しない投票及び賛否の明らかでない投票は、会議規則第73条第2項の規定により否とみなします。

点呼を命じます。

（氏名点呼、投票）

◎副議長（石井 謀君） 投票漏れはありませんか。 — 投票漏れなしと認めます。

投票を終了いたします。

議場の閉鎖を解きます。

（議場閉鎖）

◎副議長（石井 謀君） 開票を行います。

会議規則第31条第2項の規定により、立会人に田沢勝信君及び日下君敏君を指名いたします。よって、両君の立ち会いを願います。

（開票）

◎副議長（石井 謀君） 投票の結果を報告いたします。

投票総数23票、これは先ほどの出席議員数に符合いたしております。

そのうち賛成17票、反対6票、以上のとおり賛成が多数であります。よって、この採決は無記名投票によって行うことに決しました。

これより採決いたします。

採決は無記名投票により行います。

議場の閉鎖を命じます。

（議場閉鎖）

◎副議長（石井 謀君） ただいまの出席議員数は23人であります。

投票用紙を配付いたさせます。

（投票用紙配付）

◎副議長（石井 謀君） 投票用紙の配付漏れはありませんか。 — 配付漏れなしと認めます。

投票箱を改めさせます。

(投票箱点検)

◎副議長(石井 謀君) 異状なしと認めます。

念のため申し上げます。委員長の報告は修正であります。委員長の報告どおり決することに賛成の諸君は賛成と、反対の諸君は反対と記載の上、点呼に応じて順次投票願います。

なお、重ねて申し上げます。投票中、賛否を表明しない投票及び賛否の明らかでない投票は、会議規則第73条第2項の規定により否とみなします。

点呼を命じます。

(氏名点呼、投票)

◎副議長(石井 謀君) 投票漏れはありませんか。 — 投票漏れなしと認めます。

投票を終了いたします。

議場の閉鎖を解きます。

(議場開鎖)

◎副議長(石井 謀君) 開票を行います。

会議規則第31条第2項の規定により、立会人に田沢勝信君及び日下君敏君を指名いたします。よって、両君の立ち会いを願います。

(開票)

◎副議長(石井 謀君) 投票の結果を報告いたします。

投票総数23票、これは先ほどの出席議員数に符合いたしております。

そのうち賛成18票、反対5票、以上のとおり賛成が多数であります。よって、本案は委員長の報告どおり修正可決されました。

◎副議長(石井 謀君) 午前の会議はこれにて休憩といたします。

午後零時41分 休憩

午後1時44分 再開

◎副議長(石井 謀君) 午後の出席議員数24名、休憩前に引き続き会議を開きます。

### 議案の上程

◎副議長（石井 謀君） 日程第3、議案第32号及び議案第33号の各議案を一括して議題といたします。

### 建設経済委員会委員長報告

◎副議長（石井 謀君） ただいま議題となりました各議案は、ともに3月13日の本会議において建設経済委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する建設経済委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

建設経済委員会委員長鈴木忠夫君。御登壇願います。

（建設経済委員会委員長鈴木忠夫君登壇）

◎建設経済委員会委員長（鈴木忠夫君） ただいま議題となりました議案第32号及び議案第33号にかかわる建設経済委員会におきます審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

各議案は、いずれも去る3月の定例議会におきまして本委員会に付託され、継続審査となっていたものであります。9月22日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

以下、その概要を御報告申し上げます。

まず、議案第32号館山市水道事業給水条例の一部を改正する条例の制定についてであります。

昨年度決算では3,904万円の純利益を計上しており、今年度も黒字決算が見込まれるが、消費税分を内税として吸収できるのではないかととの質問に対しまして、水道事業は収益的収支と資本的収支があり、合計では1億6,000万の不足を生じている。地方公営企業法に基づき、健全な事業運営の確保からも利益が必要とされている。利益も昨年をピークに下がってきているとの説明がありました。

次に、前回の料金改定は昭和60年度に実施されているが、来年度は料金改定の予定はあるのかとの質問に対しまして、現在料金改定を検討する段階ではないと考えているとの答弁がありました。

本案につきましては、7名の委員から修正案が提出されました。修正案の内容について申し上げます。なお、本修正案につきましてお手元に配付してございますので、御参照願います。

修正は附則の修正でありまして、原案の附則第1項の施行期日平成元年4月1日を平成元年10月1日に改め、第2項の料金の経過措置について、水道料金の改正規定では、この条例の施行期日であります10月1日以降の最初の検針日が11月になるため、11月の検針後から適用することに改め、これに伴い附則第3項が不要となるのでこれを削るものであります。

修正案の提案理由として、消費税の導入に伴う使用料、手数料の見直しについては、県を初め県内の各市町村の中でも相当数見送りあるいは検討中のところもあったことから、本市議会でも3月、6月定例会において継続審査とし、慎重に審議を重ねてきたが、既に本年4月1日から消費税法が施行され、地方公共団体が行う財貨、サービス等の提供等についても原則として課税対象となっていること、県においても10月1日から転嫁が決定していることなどを考慮し、本条例を10月1日から施行することが適当であるとの説明がありました。

次に、討論を行い、政府は公約違反の消費税を4月から導入したが、社会的に弱い立場の人に過重な負担を強いるものであること、事業者の転嫁をめぐる問題、納めた税金がそのまま国に納入されないことなど、消費税の持つ欠陥に国民の不満や不信が増している。実施後わずか2カ月で見直しをせざるを得ない事態に追い込まれたことは、政府みずから消費税の欠陥を認めたことであり、国民の合意を得ていない証拠である。見直しと廃止を含めると89%にも達しており、国民の大多数は欠陥に対して反対している。このような状況から、本条例の修正案、原案ともに反対するとの意見がありました。

また、本案は3月議会に提案されたが、当時の状況はいろいろの問題があり、混乱しておったと判断し、十分検討した上で結論をとということから継続審査となった。根本的には高齢化社会の対応、国際社会に適應した税制に改めるなど、直間比率を見直し、消費税を導入することには賛成である。世論調査も60%近い人が見直し等で、立派なものにしようという機運が高まって

きた。県においても6月議会で結論を出した。10月1日からの施行に賛成するが、水道事業は現在黒字であり、当分の間値上げをしないよう努力を要望するとの賛成意見がありました。

採決の結果、修正案及び修正部分を除く原案についていずれも賛成多数をもって可決されました。

次に、議案第33号館山市国民宿舎利用料徴収条例の一部を改正する条例の制定についてであります。質疑はありませんでした。

本案についても7名の委員から修正案が提出されました。修正案の内容について申し上げます。修正は附則の修正でありまして、原案の施行期日、平成元年4月1日を平成元年10月1日に改めるものであります。提案理由として、議案第32号に対する修正理由と同様の理由であるとの説明がありました。

討論はありませんでした。

採決の結果、修正案及び修正部分を除く原案についていずれも賛成多数をもって可決されました。

以上、建設経済委員長報告を終わります。

◎副議長（石井 謀君） 以上で委員長の報告を終わります。

#### 質 疑 応 答

◎副議長（石井 謀君） ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

#### 討 論

◎副議長（石井 謀君） これより討論を行います。

通告がありますので、発言を許します。

11番議員神田守隆君。御登壇願います。

（11番議員神田守隆君登壇）

◎11番（神田守隆君） 議案の第32号館山市水道事業給水条例の一部を改正する条例の制定について及び議案第33号館山市国民宿舎利用料徴収条例の一部を改正する条例の制定について、それぞれ反対をいたします。また、こ



の条例についてそれぞれ修正ということで修正がされておりますが、この修正の部分についても反対をいたします。

水道料金、国民宿舎料金を消費税分相当分を値上げを行おうとするこの議案であります。消費税の導入は、自民党が天下に公約をした大型間接税はやらないとの公約違反、これは明らかであります。さきの参議院選挙の結果は、この自民党に厳しい審判を下し、消費税は廃止すべしとの国民の意思を明確に示しました。このため、自民党自身が現行の消費税を維持することはできないとその見直しを言い出しているありさまであります。しかし、いわゆる見直し論はその手直しであり、廃止ではありません。消費税はあくまでも廃止すべきである、これが国民の声に沿うことだと考えます。

地方公共料金への消費税転嫁の実施状況、全国の自治体では参議院選挙の結果を受けて、6月議会以降は進展どころかむしろ後退しているという調査結果が報道されました。例えば、兵庫県や神戸市では上水道への10月実施を既に決めておりましたが、当分の間延期するとか、福岡県でも10月実施ということで公営住宅等の消費税分値上げを見直すということで方針を変えとか、あるいは徳島県でも消費税分を減額をする処置をとるということで事実上転嫁をしないとか、参議院選挙で示された国民の審判の前に、各自治体がそれぞれこの消費税への転嫁を進めるところか、むしろそれを後退させているというのが現状であります。

参議院選挙で国民の多数が強い拒否反応を示したことが、国会で見直し、廃止の動きがあることから、慌てて結論を出すのは問題である。これは京都府知事の言葉であります。現にこれまで館山市議会では3月、6月とこれらの議案を継続審査としてきたいきさつがあります。そもそも水道料金は市民生活にとって最低限必要なものであります。これに消費税をかけること自体重大な問題があるわけですが、そのことの議論はさておいたといたしましても、果たしてこの水道料金や国民宿舎料金への消費税転嫁を急がなければならないその緊急性はどこにあるのでありましょうか。県が10月から実施するのでそれに合わせるためだというのなら、これは市民の暮らしを見ないやり方だと言わなければなりません。千葉市などは消費税転嫁の全面見

直しをしております。県に合わせる必要はそもそもありません。修正案では10月から実施としていますが、これは住民の意向を考えた場合に、周知期間も置くことができないという重大な問題も持っているわけで、こうした点からそのやり方の面も含めまして市民の批判的となることは間違いないと思います。

こうした点を指摘をいたしまして、私の反対討論といたします。

◎副議長（石井 謀君） 以上で神田守隆君の討論を終わります。

以上で通告者による討論を終わりますが、通告をしない議員で討論はありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

#### 採 決

◎副議長（石井 謀君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、議案第32号館山市水道事業給水条例の一部を改正する条例の制定について無記名投票により採決いたします。

議場の閉鎖を命じます。

（議場閉鎖）

◎副議長（石井 謀君） ただいまの出席議員数は23人であります。

投票用紙を配付いたさせます。

（投票用紙配付）

◎副議長（石井 謀君） 投票用紙の配付漏れはありませんか。 — 配付漏れなしと認めます。

投票箱を改めさせます。

（投票箱点検）

◎副議長（石井 謀君） 異状なしと認めます。

念のため申し上げます。委員長の報告は修正であります。委員長の報告どおり決することに賛成の諸君は賛成と、反対の諸君は反対と記載の上、点呼に応じて順次投票願います。

なお、重ねて申し上げます。投票中、賛否を表明しない投票及び賛否の明

らかでない投票は、会議規則第73条第2項の規定により否とみなします。

点呼を命じます。

(氏名点呼、投票)

◎副議長(石井 謀君) 投票漏れはありませんか。 — 投票漏れなしと認めます。

投票を終了いたします。

議場の閉鎖を解きます。

(議場開鎖)

◎副議長(石井 謀君) 開票を行います。

会議規則第31条第2項の規定により、立会人に田沢勝信君及び日下君敏君を指名いたします。よって、両君の立ち会いを願います。

(開票)

◎副議長(石井 謀君) 投票の結果を報告いたします。

投票総数23票、これは先ほどの出席議員数に符合しております。

そのうち賛成18票、反対5票、以上のとおり賛成が多数であります。よって、本案は委員長の報告どおり修正可決されました。

次いで、議案第33号館山市国民宿舎利用料徴収条例の一部を改正する条例の制定について無記名投票により採決いたします。

議場の閉鎖を命じます。

(議場閉鎖)

◎副議長(石井 謀君) ただいまの出席議員数は23人であります。

投票用紙を配付いたさせます。

(投票用紙配付)

◎副議長(石井 謀君) 投票用紙の配付漏れはありませんか。 — 配付漏れなしと認めます。

投票箱を改めさせます。

(投票箱点検)

◎副議長(石井 謀君) 異状なしと認めます。

念のため申し上げます。委員長の報告は修正であります。委員長の報告ど

おり決することに賛成の諸君は賛成と、反対の諸君は反対と記載の上、点呼に応じて順次投票願います。

なお、重ねて申し上げます。投票中、賛否を表明しない投票及び賛否の明らかでない投票は、会議規則第73条第2項の規定により否とみなします。

点呼を命じます。

(氏名点呼、投票)

◎副議長(石井 謀君) 投票漏れはありますか。 — 投票漏れなしと認めます。

投票を終了いたします。

議場の閉鎖を解きます。

(議場開鎖)

◎副議長(石井 謀君) 開票を行います。

会議規則第31条第2項の規定により、立会人に田沢勝信君及び日下君敏君を指名いたします。よって、両君の立ち会いを願います。

(開票)

◎副議長(石井 謀君) 投票の結果を報告いたします。

投票総数23票、これは先ほどの出席議員数に符合いたしております。

そのうち賛成18票、反対5票、以上のとおり賛成が多数であります。よって、本案は委員長の報告どおり修正可決されました。

請願書の上程

◎副議長(石井 謀君) 日程第4、請願第18号消費税廃止決議と公共料金の値上げ反対を求める請願書を議題といたします。

総務委員会委員長報告

◎副議長(石井 謀君) ただいま議題となりました請願第18号は、6月20日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。

よって、これより本請願に対する総務委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長榎本春光君。御登壇願います。

(総務委員会委員長榎本春光君登壇)

◎総務委員会委員長(榎本春光君) ただいま議題となりました請願第18号消費税廃止決議と公共料金の値上げ反対を求める請願書にかかわる総務委員会における審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

本請願につきましては、6月20日の本会議におきまして本委員会に付託され、継続審査となっていたものでありまして、21日招集の委員会において審査をいたしました。

討論において、消費税法については成立の時点から問題がある。現在見直しの論議がなされ、国の動向も流動的である。また、自治体においても消費税の転嫁を見送ったところもある。本請願は市民の意向に沿ったものであるとの賛成意見がありました。

決別の結果、賛成少数により不採択と決しました。

以上、総務委員会委員長報告を終わります。

#### 質 疑 応 答

◎副議長(石井 謀君) ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。— 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

#### 討 論

◎副議長(石井 謀君) これより討論を行います。

通告がありますので、発言を許します。

21番議員辻田 実君。御登壇願います。

(21番議員辻田 実君登壇)

◎21番(辻田 実君) 請願第18号消費税廃止決議と公共料金の値上げ反対を求める請願書に賛成討論をいたしますので、よろしくお願いいたします。

この請願書は市民の大多数の声であり、要望であると思います。市民の正しい要望を退けることは民主政治の精神に反することです。地方自治体は思想心情、一党一派に偏してはならないと思うのでございます。私は

そうした気持ちから、市政に当たっては党派を超越して市民本位の市民第一に取り組んでまいってきております。こうした立場から、この請願書を採択できなかったという委員長報告につきましては、非常に残念であり、市民に対して申し開きのできないことであろうと私は思うのでございます。政治家として、市会議員として資格が問われかねない問題であろうと思うのでございます。

したがって、私は本請願書は本当の館山市民の大多数の声であるということを確認して疑いません。市議会議員は市民の声を議会に反映させることが本務であるわけでございますから、このことを忘れては大変なことになるわけございまして、そうした面について私は私情を捨てて、本案については市民の声を反映させて採択するのが妥当だろうというふうに思いまして、皆さんの御賛同をいただいて、本請願の御採択を心からお願い申し上げまして、私の討論のごあいさつにかえさせていただきます。よろしくお願いいたします。

◎副議長（石井 謀君） 以上で辻田 実君の討論を終わります。

以上で通告者による討論を終わりますが、通告をしない議員で討論はありますか。— 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

### 採 決

◎副議長（石井 謀君） これより採決いたします。

採決は無記名投票により行います。

議場の閉鎖を命じます。

（議場閉鎖）

◎副議長（石井 謀君） ただいまの出席議員数は23人であります。

投票用紙を配付いたさせます。

（投票用紙配付）

◎副議長（石井 謀君） 投票用紙の配付漏れはありませんか。— 配付漏れなしと認めます。

投票箱を改めさせます。

(投票箱点検)

◎副議長(石井 謀君) 異状なしと認めます。

念のため申し上げます。委員長の報告は不採択であります。本請願を採択することに賛成の諸君は賛成と、反対の諸君は反対と記載の上、点呼に応じて順次投票願います。

(「方法について。もう書きちゃいましたよ。書いてもらわなきゃだめですよ、反対ですから。宣告したときはね原案でやったんですから、今またこの委員長報告について採択となりますと逆になっちゃいますから、書きちゃってあるから。採択に入りますとってやったんだ。投票用紙配ったんだから。投票用紙配る前にやんなきゃだめだよ、それ」と呼ぶ者あり)

◎副議長(石井 謀君) 念のためもう一度申し上げます。

(「いやいや、配っちゃったんだから、投票に入るというのを宣告して投票用紙配ったんだから、それで書いたんだから、後で撤回しないと、もう書きちゃってあるから、もう一度配付しなきゃだめですよ、訂正する場合には。書きちゃってあるよ、おれは。書きちゃってから取っかえられたんじゃ困っちゃうよ。後から言うんだもの。その前は委員長報告じゃないんだから」と呼ぶ者あり)

◎副議長(石井 謀君) 趣旨がはっきりしないようでございますので、もう一度念のために申し上げます。委員長の報告は不採択であります。本請願を採択することに賛成の諸君は賛成と、反対の諸君は反対と記載の上、点呼に応じて順次投票願います。

(「だから、書きちゃったんだよ。書きちゃっ

たんだから、もうあれしてもらわなきゃ困っちゃう。無効になっちゃうじゃないよ。訂正だめでしょうよ。いいの、投票は。書き損じというのだめになるんでしょう。後からそれ言ったんじゃだめだよ、原稿先読まなきゃ。まるっきり反対になっちゃうんだからこれだめだよ。投票用紙いいの、それ線引っ張って。まるっきり反対になっちゃうわけ」と呼ぶ者あり)

◎副議長（石井 謀君） 21番議員に申し上げます。訂正して書き直してください。

なお、重ねて申し上げます。投票中、賛否を表さない投票及び賛否の明らかでない投票は、会議規則第73条第2項の規定により否とみなします。

点呼を命じます。

（氏名点呼、投票）

◎副議長（石井 謀君） 投票漏れはありませんか。 — 投票漏れなしと認めます。

投票を終了いたします。

議場の閉鎖を解きます。

（議場開鎖）

◎副議長（石井 謀君） 開票を行います。

会議規則第31条第2項の規定により、立会人に田沢勝信君及び日下君敏君を指名いたします。よって、両君の立ち会いを願います。

（開票）

◎副議長（石井 謀君） 投票の結果を報告いたします。

投票総数23票、これは先ほどの出席議員数に符合いたしております。

そのうち賛成6票、反対17票、以上のとおり反対が多数であります。よって、本請願は不採択と決しました。



### 継続審査について

◎副議長（石井 謀君） 日程第5、継続審査についてお諮りをいたします。

建設経済委員会に付託中の請願第20号館山市館野の全地区に上水道を早期に設置願うことについての請願書については、委員長から慎重審査の必要上、会議規則第104条の規定により閉会中の継続審査とされたい旨の申し出がありました。

お諮りいたします。請願第20号を委員長からの申し出のとおり閉会中の継続審査とすることに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎副議長（石井 謀君） 御異議なしと認めます。よって、請願第20号は閉会中の継続審査とすることに決しました。

なお、この際申し上げます。各常任委員会における陳情審査結果が報告されております。お手元に配付の印刷書により御了承願います。

### 議案の上程

◎副議長（石井 謀君） 日程第6、認定第1号乃至認定第7号昭和63年度館山市一般会計及び特別会計決算を一括して議題といたします。

### 決算審査特別委員会委員長報告

◎副議長（石井 謀君） ただいま議題となりました各会計決算は、ともに9月20日の本会議において特別委員会を設置し、付託されたものであります。

よって、これより本決算に対する決算審査特別委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

決算審査特別委員会委員長近藤好雄君。御登壇願います。

（決算審査特別委員会委員長近藤好雄君登壇）

◎決算審査特別委員会委員長（近藤好雄君） ただいま議題となりました認定第1号乃至認定第7号昭和63年度館山市一般会計及び特別会計決算に係る決算審査特別委員会における審査の経過並びに結果につきまして御報告申し上げます。

去る20日の本会議におきまして本委員会に付託されました各決算につきまして、25日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。審査に当たっては、提出された説明資料に基づいて市当局の考えをただし、あるいは処理状況の報告を求め、さらに今後改善すべき点、検討を要する事項を指摘、要望しつつ審査を行った次第であります。

以下、委員会におきます質疑応答等整理いたしまして、論議されました主な点につきまして御報告申し上げます。

まず、一般会計歳出であります。決算全体にかかわる問題として、行財政の簡素合理化、経費節減にどのように対応しているか説明を求めましたところ、経常経費の節減等については予算編成の際総ワク規制の中で節減を図り、行財政の効率化についてはそれぞれ事業を精査しながら予算編成をしている。また、人事管理面ではOA化を推進、民間委託の推進、組織の見直し等を従前から行っている。さらに、行財政改革審議会を設けて検討を行い、またQC活動を推進して職員の意識の高揚を図るなど、常に改革に取り組んでいるとの説明がありましたが、単に各課ごとの問題ではなく、全体的な連絡調整を行い、さらに組織的な節減合理化、効率化等を図られるよう要望しました。

次に、実質収支7億円を生じているが、この決算状況を踏まえ、健全財政を主眼とするのか、また積極的な先行投資をしていくか、今後の財政運営に対する考え方について伺いましたところ、地方財政制度は単年度主義であるが、行政運営は長期的なものであり、長期的運営に立った財政運営をしなければならないと考えている。健全財政を堅持しつつ、将来の事業に対する資金を確保しておかなければならないとの考えが示されました。

次に、全体として2億円近い不用額が生じていることについて説明を求めましたところ、通常1%程度と考えているが、今回特に老人保健特別会計の繰出金4,000万円、繰越明許費の関係で約1億円等で特に多額となった旨の説明がありました。

次に、総務費であります。地方バス路線維持費補助金が支出されており、地域住民の日常生活に必要な交通の利便を確保するため、第2種及び第3種

生活バス路線の運行維持に補助したものであるとの説明がありましたが、なお本年9月30日をもってそのうちの3路線が廃止されたことに伴い、関係市町村で協議した結果、代替バスを購入して今までどおりの運行をしていくことになったとの説明がありましたが、今後道路事情の変化に伴ってさらに利用しやすいバス路線の検討を要望いたしました。

次に、民生費であります。老人福祉センターの公衆電話が撤去されたと聞かれましたが、こういうところこそ電話が必要であるので、調査をされ、利用者の利便を図っていただきたいとの要望がありました。

次に、衛生費であります。安房郡市地域医療協議会の負担金が支出されており、当協議会については地域医療の諸問題の円滑な推進、住民の健康維持増進を図るため、安房郡市11市町村で設置されているとの説明がありましたが、今日の安房地域全体の大きな課題として救急医療体制の充実が叫ばれているので、広域的な立場でぜひ検討されるよう要望いたしました。

次に、産業廃棄物の処分について市ではどのように対応していくかの質問に対し、産廃については事業者みずから処分することが大原則である。所管は県であり、市としては埋め立ての条例等により指導している。本年4月に保健所に産廃の監視、水質の監視を行う環境衛生課が設置されたこともあり、保健所と連絡を取りながら指導していきたいとの説明がありましたが、さらに処分場設置に対する考え方について伺いましたところ、処分場は産業活動にとって大事なものと認識しているが、水源問題、住民の同意問題等から市内では非常に難しい状況にある。市としては今まで水質検査用の井戸を掘ること、要望がある場合には住民との公害防止協定を結んで立ち入りもできるようにすることなどを県に対する意見の中で伝えており、今後もその方針でいくとの説明がありました。

次に、労働費であります。昨年の本会議で勤労者団体補助金の支出に当たって改善を要望したが、どのように改善されたのか説明を求めましたところ、地区労と話し合った結果、従前地区労の本会計で処理していたものを、地区労からさらに労働者福祉協議会に支出して労働者の福利厚生に使用していただくことになっているとの説明がありました。

次に、農林水産業費であります、豊房育成牧場の預託牛の内訳は63年度市内 562頭、市外 633頭で、預託料は1カ月1頭1万 5,000円、市外は1割増しとなっているとの説明がありました。なお、土地借上料の支出にあたって、安房畜協の営舎部分の借上料は含まれていないとの説明がありました。

次に、農道整備に関して農道整備委託料と農道整備工事請負費が支出されていることについて説明を求めたところ、委託料については農業開発公社に委託して行い、工事請負費については設計等市直営で行ったもので、委託か直営かということを検討している中で、建設課の協力を得ながら試みに実施したが、結果的には若干委託した方が安く上がるのではないかと説明がありました。

次に、農業用施設等補修用材料費について交付基準について説明を求めましたところ、金額についての交付基準はないが、一応現段階においては20戸未満15万円、20戸から40戸が20万円、40戸以上25万円ということで農家組合単位に交付しているが、転作の実施状況によっては若干の減額をしているとの説明がありましたが、地区によっては年次計画を立てて農道整備を行っているところもあるので、交付に当たっては地域の実情も考慮すべきではないかとの意見がありました。

次に、土木費であります、館山駅西口地区景観設計委託料が支出されておりますが、この設計に沿ってある程度の制約はできるのかとの質問に対しまして、区画整理事業は現在の家を換地によって移転するので、その際改築、新築をする場合に市からお願いすることになる。公共的な事業についてはこの景観設計に沿ったもので実施したいとの説明がありました。

次に、私道舗装等補助制度についてであります、63年度から実施したもので、対象は八幡地内の1件であったとの説明がありました。

さらに、運用上問題点もあるように思うがどうかとの質問に対しまして、幅員の問題、戸数の問題等で当てはまらないということがあるが、ここ数年はこの要綱で実施していきたいとの説明がありましたが、制度としてはいいけれども、なかなか実施できないようなこともあるので、ここ一、二年の運用を見ながら検討願いたいとの意見がありました。

次に、消防費であります、消防の機能が充実してきている中で、消防団の合併等は考えているかとの質問に対しまして、市の行政改革大綱に基づいて見直しを行っており、既に館野、九重で合併して省力化、効率化、団員の確保を図っている。また豊房地区においても統合の方向で検討しているとの説明がありました。

さらに、西岬地区には分遣所があるが、統合についてどのように考えているかとの質問に対しまして、具体的に検討はしていないが、統合については地域住民、消防団員の考え方に相当の重きを置かなければならない。その方たちがそのような考えであれば、市としても進めていいのではないかと考えているとの説明がありました。

次に、教育費であります、神余小学校の老朽化が問題になっているが、統合に対する考え方について伺いましたところ、神余小学校については生徒数が減少し、現在30名、4学級となっている。平成元年度の入学者は3名であり、少数であると正常な教育ができない欠陥がある。そのために統合することはやむを得ないということで、長年にわたって地元と折衝しているが、伝統のある学校であり、地元では残していただきたいとの要望がある。来年度の統合は無理であるが、何とか地元の理解が得られるような状況に持っていきたい。現在の校舎については、教育活動がスムーズに行われる範囲内において補修工事を行っていくとの説明がありました。

次に、主要な施策の報告の中で、社会体育施設の充実を図ったとあるが、修繕、改修にとどまっており、特に体育施設の充実とつながらないようにも思うが、市独自として施設建設の予定、今後の見通しはどうか説明を求めましたところ、市民運動場、東市民運動場等の総合的な計画を検討中であり、いろいろこれから考えていきたいとの説明がありました。

次に、歳入であります、まず半島振興法による固定資産税の減免措置の件数及び減税額について説明を求めましたところ、63年度軽減該当8社、減税額は 2,566万 6,500円であり、最高軽減額は1社で 1,780万 1,700円であるとの説明がありました。

次に、特別土地保有税の予算額と収入済額の差が大きいことについて説明

を求めましたところ、特別土地保有税については土地の保有分と取得分の2本立てになっているが、取得分について予算編成時点で向こう1年間の課税対象となる取引の予測がつかず、当初予算には保有分の額のみを計上しており、年度途中において取得分10件、面積21万5,939平方メートルで、税額3,572万4,000円があったことによるとの説明がありました。

次に、実質収支7億円、市債が7億円という点から見れば、市債に頼らずに運営ができたのではないかと指摘に対しまして、市債について、根本的には該当年度の住民だけに負担させることが適当でない事業について、後年度の住民に負担させるということで市債の活用を図る考え方をしている。また、高率なものを返して低率なものを借りたということもあり、今後とも全体の財政状況を踏まえて市債の活用を図りたいとの説明がありました。

次に、国民健康保険特別会計であります。一般会計から2,000万円の繰り入れをしたというのは大変意味のある決算で、そのことは重要なことだと考える。今後もその考えで運営をしていくのかとの質問に対しまして、63年度は前々年度の不納欠損額、前年度の減免額を一般会計から繰り入れ、さらに元年度においても同様な措置をしている。昭和63年度は給付の関係で前年度を下回ったが、これは異例なことと考えている。仮に今後も前年度を下回っていくということが続いた場合の繰り入れについては現段階では答えられないとの説明がありましたが、保険税は負担の限界にきており、繰り入れを停止するような事態ではないとの意見がありました。

次に、老人保健特別会計であります。年々予算額はふえているが、県下の状況と比較してどうかと説明を求めましたところ、医療費の伸びについては59年度から毎年大体10%台の伸びであり、受診率については県平均を下回る、1人当たりの費用額については県平均と同様であるとの説明がありました。

次に、水道事業特別会計であります。有収率80.9とかなり低い原因とその対策について説明を求めましたところ、延長209キロの導配水管を持っており、有収率の低い主な原因としては、工事中の事故や老朽管のために地下に浸透していることが考えられる。今年から水道班を編成して漏水探知機を

フルに活用して原因を究明、また専門家に調査を委託するなどして有収率の向上に努力していきたいとの説明がありました。

次に、国民宿舎特別会計についてであります。今後とも運営を継続していかれるかとの質問に対しまして、昨年度1億円を出資し、借入金の返済に充てたことで財政負担が軽くなり、経常収支については黒字の状況にある。職員も努力して評判もよくなっているので、できればこのまま続けていきたいとの考えを示されましたが、今後においてはさらに改造、設備の充実が必要になると思われるので、なお一層効率的運用をされるよう要望いたしました。

以上が質疑応答等の概要であります。

次に、討論を行いましたところ、63年度は国庫補助金等の削減を引き続き押しつけられたという点では、国の地方自治体に対する財政上の侵害があった。そのもとで、国の基準財政収入額の算定基準の改定に伴って幼稚園入園料の値上げが行われたということは、国の施策に追随したということで認められない。また、7億円余の決算剰余金を出したことは、それなりの理由があったにせよ、住民の積極的な福祉施設を展開させていくということから、財政運用上考えるべき点があったんではないかとして、認定第1号に反対する意見がありました。

さらに、一般会計及び各特別会計について、問題点も指摘されたが、それぞれ行政の立場で努力された決算と考え、評価したい。今後決算審査で討議された問題を十分検討して後年度の予算に反映させ、市民の負託にこたえるよう要望するとの賛成意見がありました。

以上、決算審査特別委員会における審査の概要を御報告申し上げましたが、採決の結果、付託を受けました認定第1号昭和63年度一般会計決算につきましては賛成多数をもって、認定第2号乃至認定第7号の各特別会計決算につきましては全員一致をもっていずれも認定することに決しました。

以上、決算審査特別委員会委員長の報告を終わります。

◎副議長（石井 謀君） 以上で委員長の報告を終わります。

## 質 疑 応 答

◎副議長（石井 謀君） ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

## 討 論

◎副議長（石井 謀君） これより討論を行います。

通告はありませんでした。討論はありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

## 採 決

◎副議長（石井 謀君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、認定第1号一般会計決算について起立により採決いたします。

認定第1号についての委員長の報告は認定であります。

認定第1号を委員長の報告どおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

◎副議長（石井 謀君） 起立多数であります。よって、認定第1号一般会計決算は認定することに決しました。

次いで、認定第2号乃至認定第7号の各特別会計決算について一括して採決いたします。

認定第2号乃至認定第7号についての委員長の報告は認定であります。

認定第2号乃至認定第7号を委員長の報告どおり認定することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎副議長（石井 謀君） 御異議なしと認めます。

よって、認定第2号乃至認定第7号の各特別会計決算はいずれも認定することに決しました。



### 議案の上程

◎副議長（石井 謀君） 日程第7、議案第59号人権擁護委員候補者の推薦についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

◎副議長（石井 謀君） 議案の朗読は終わりました。

### 議案の内容説明

◎副議長（石井 謀君） 議案の説明を求めます。

半澤市長。

（市長半澤良一君登壇）

◎市長（半澤良一君） 議案第59号人権擁護委員候補者の推薦について提案理由を御説明申し上げます。

去る9月14日をもちまして任期満了となりました人権擁護委員1名につきまして、人権擁護委員法第6条第3項の規定により候補者の推薦を求められておりますので、引き続き佐野栄昭さんを最適任者といたしまして御推薦申し上げたいと存じます。

御賛同賜りますようお願い申し上げます。

◎副議長（石井 謀君） 説明は終わりました。

### 質疑応答

◎副議長（石井 謀君） これより質疑を行います。

御質疑はありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

### 委員会付託の省略

◎副議長（石井 謀君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎副議長(石井 謀君) 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

#### 討 論

◎副議長(石井 謀君) これより討論を行います。

討論はありませんか。— 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

#### 採 決

◎副議長(石井 謀君) これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎副議長(石井 謀君) 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

#### 議案の上程

◎副議長(石井 謀君) 日程第8、議案第60号館山市監査委員の選任についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

(書記朗読)

◎副議長(石井 謀君) 朗読は終わりました。

#### 議案の内容説明

◎副議長(石井 謀君) 議案の説明を求めます。

半澤市長。

(市長半澤良一君登壇)

◎市長(半澤良一君) 議案第60号館山市監査委員の選任について提案理由を御説明申し上げます。

本市の監査委員中、知識経験を有する者から選任をいたします委員の鈴木重司さんが平成元年10月1日をもって任期満了いたしますが、引き続き鈴木重司さんを最適任者と考え、選任いたしたく存じます。

御賛同賜りますようお願い申し上げます。

◎副議長（石井 謀君） 説明は終わりました。

#### 質 疑 応 答

◎副議長（石井 謀君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

#### 委員会付託の省略

◎副議長（石井 謀君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎副議長（石井 謀君） 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

#### 討 論

◎副議長（石井 謀君） これより討論を行います。

討論はありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

#### 採 決

◎副議長（石井 謀君） これより採決いたします。

監査委員の選任について同意を求める件は、これに同意することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎副議長（石井 謀君） 御異議なしと認めます。よって、監査委員の選任について同意を求める件は、これに同意することに決しました。

#### 議案の上程

◎副議長（石井 謀君） 日程第9、議案第61号館山市教育委員会委員の任命についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

◎副議長（石井 謀君） 朗読は終わりました。

#### 議案の内容説明

◎副議長（石井 謀君） 議案の説明を求めます。

半澤市長。

（市長半澤良一君登壇）

◎市長（半澤良一君） 議案第61号館山市教育委員会委員の任命について提案理由を御説明申し上げます。

館山市教育委員会委員中、山田教和さんが平成元年9月30日をもって任期満了いたしますが、引き続き山田教和さんを最適任者と考え、任命いたしたく存じます。

御賛同賜りますようお願い申し上げます。

◎副議長（石井 謀君） 説明は終わりました。

#### 質疑応答

◎副議長（石井 謀君） これより質疑を行います。

御質疑はありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

#### 委員会付託の省略

◎副議長（石井 謀君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎副議長(石井 謀君) 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

## 討 論

◎副議長(石井 謀君) これより討論を行います。

討論はありませんか。— 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

## 採 決

◎副議長(石井 謀君) これより採決いたします。

教育委員会委員の任命について同意を求める件は、これに同意することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎副議長(石井 謀君) 御異議なしと認めます。よって、教育委員会委員の任命について同意を求める件は、これに同意することに決しました。

## 議案の上程

◎副議長(石井 謀君) 日程第10、発議案第4号館山市議会会議規則の一部を改正する規則の制定についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

(書記朗読)

◎副議長(石井 謀君) 朗読は終わりました。

## 議案の内容説明

◎副議長(石井 謀君) 議案の説明を求めます。

13番山中金治郎君。御登壇願います。

(13番議員山中金治郎君登壇)

◎13番(山中金治郎君) 先ほど館山市の休日に関する条例が議決され、第2及び第4土曜日が閉庁となることが決定されましたのに伴いまして、館山市議会会議規則に規定されております休会日についてもこれとあわせて改正する必要が生じたので、館山市議会会議規則の一部を改正する規則の制定についてを提案いたしました次第であります。

規則改正の内容は、第10条第1項に「日曜日及び休日は休会とする。」とあるのを「館山市の休日に関する条例第1条第1項各号に掲げる日は休会とする。」と改正するものであります。この結果、議会の休会日は日曜日並びに毎月第2土曜日及び第4土曜日、国民の祝日に関する法律に規定する休日並びに12月29日から翌年1月3日までの日となります。なお、この規則の施行日については、条例にあわせて平成元年10月29日とするものであります。

議員の皆さんの御賛同を賜りますようお願い申し上げまして、提案理由といたします。

◎副議長(石井 謀君) 説明は終わりました。

質 疑 応 答

◎副議長(石井 謀君) これより質疑を行います。

御質疑はありませんか。— 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎副議長(石井 謀君) お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略したいと思います。これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎副議長(石井 謀君) 御異議なしと認めます。よって、委員会の付託を省略することに決しました。

## 討 論

◎副議長（石井 謀君） これより討論を行います。

討論はありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

## 採 決

◎副議長（石井 謀君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎副議長（石井 謀君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

## 閉 会 午後３時１２分

◎副議長（石井 謀君） 以上で本定例会に付議されました案件は議了いたしました。

よって、これにて第３回市議会定例会を閉会いたします。

◎本日の会議に付した事件

- 1 議案第２７号、議案第３２号、議案第３３号、議案第５０号乃至議案第６１号
- 1 請願第１８号
- 1 認定第１号乃至認定第７号
- 1 発議案第４号
- 1 継続審査について（請願第２０号）

地方自治法第１２３条第２項の規定により署名する。

館山市議会議長

館山市議会副議長

館山市議会議員

館山市議会議員